平成 31 年 3 月 28 日
東京湾再生推進会議モニタリング分科会
九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
東京湾岸自治体環境保全会議
東京湾再生官民連携フォーラム東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム

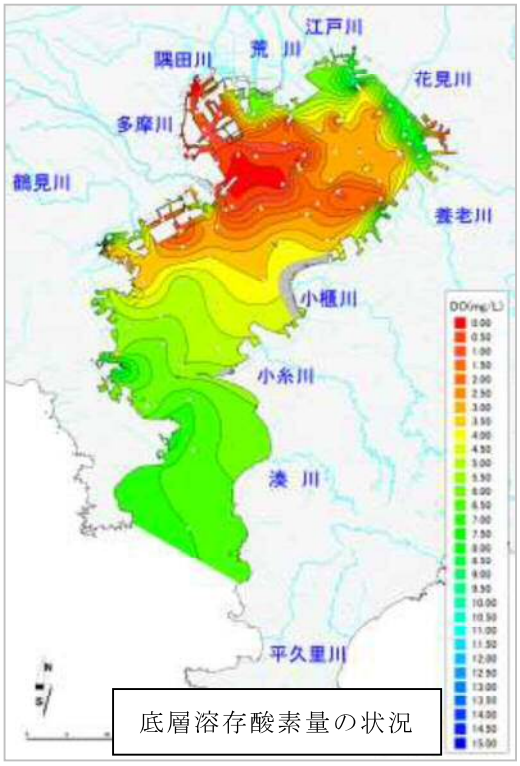
平成 30 年度東京湾環境一斉調査　調査結果の公表について

平成 30 年度の東京湾環境一斉調査の調査結果をとりまとめた報告書を公表いたしましたので、お知らせします。

今年度の水質調査は予定どおり 8 月 1 日（水）に実施され、169 機関の皆様にご参加いただきました。左下の図は、底層の海水に溶けている酸素の量(底層溶存酸素量)の状況を示した図です。底層溶存酸素量が少ないことを示す赤色の海域(3 mg/L 未満)が、羽田沖から対岸に至るまでの広い範囲にかけて広がっており、貝類などの底生生物に厳しい環境になっていたことがわかります。

また、生物調査では、干潟に棲む生物種の調査を実施し、13 綱 78 種が確認されました。なお、今年度から干潟調査の一環としてカニ生息一斉調査も実施しています。

環境啓発活動等のイベントでは、海水浴体験やごみ拾い等、水辺の自然に親しみを持ってもらうことを目的としたイベントが多く報告されました。



底層溶存酸素量の状況

生物調査の状況

環境啓発活動の様子
（干潟におけるごみ拾い）

１．調査結果の概要（詳細は別紙１のとおり）

（１）水質調査

・実施基準日　平成 30 年 8 月 1 日（水）

・調査内容　東京湾の海域又は流域河川において、次の項目等の調査を実施

【海域】水温、塩分、溶存酸素量（DO）、化学的酸素要求量（COD）、透明度

【陸域】水温、流量、溶存酸素量（DO）、化学的酸素要求量（COD）、透視度

・参加機関数　169 機関

・調査地点数　海域 244 地点、陸域 405 地点　計 649 地点

（２）生物調査

・実施期間　平成 30 年 5 月～10 月

・調査内容　底生生物、魚類など各参加機関が実施する生物調査データを収集

・参加機関数　16 機関（報告件数 16 件）

（３）環境啓発活動等のイベントの実施

・実施期間　平成 30 年 5 月～11 月

・活動内容　水質改善等に関する普及啓発活動を含むイベントの実施

・参加機関数　18 機関（報告件数は 19 件）

【平成 30 年度東京湾環境一斉調査報告書掲載場所】
https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/Monitoring/General_survey/index.htm

二次元コード

２．問い合わせ先

東京湾再生推進会議モニタリング分科会事務局

海上保安庁海洋情報部環境調査課　三枝、中村 03-3595-3635

環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室　森 03-5521-8319

平成30年度東京湾環境一斉調査　調査結果の概要

別紙1

水質調査（参加機関数：169機関、調査地点数：海域244地点、河川等405地点）

（水温）　北部沿岸では、中層・底層に高温海水が存在。
南風による表層の海水の沈み込みによるものと思われる。

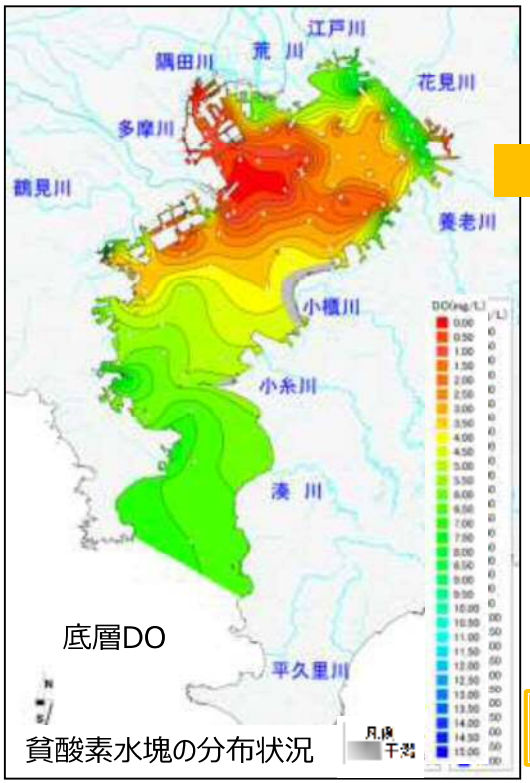
（塩分）　多摩川、荒川、江戸川などの河口域において、低い値が観測された。

（DO）　羽田沖から対岸までの広い範囲の底層で、3mg/L 以下の貧酸素水塊が観測された。
花見川及び養老川付近の表層で、10mg/L 以上の高い水塊が観測された。

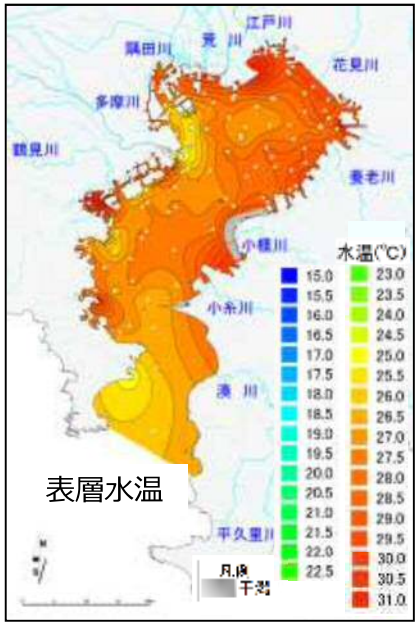
（COD）　湾央から湾奥部の底層では、周囲に比べ比較的高い５mg/L の値が観測された。
南風による表層の海水の沈み込みによるものと思われる。

（透明度）　湾口よりも湾奥で低くなる傾向が見られ、湾奥では２m 以下の水域が観測された。

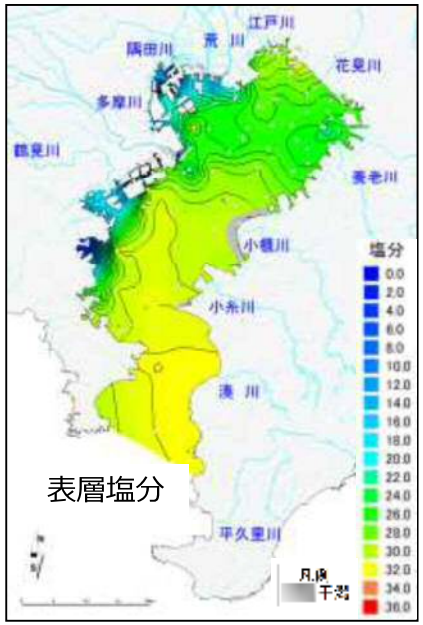
観測点図



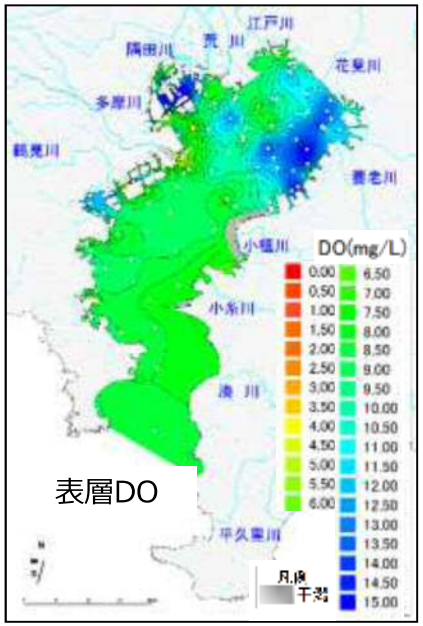
底層DO
貧酸素水塊の分布状況



表層水温



表層塩分



表層DO

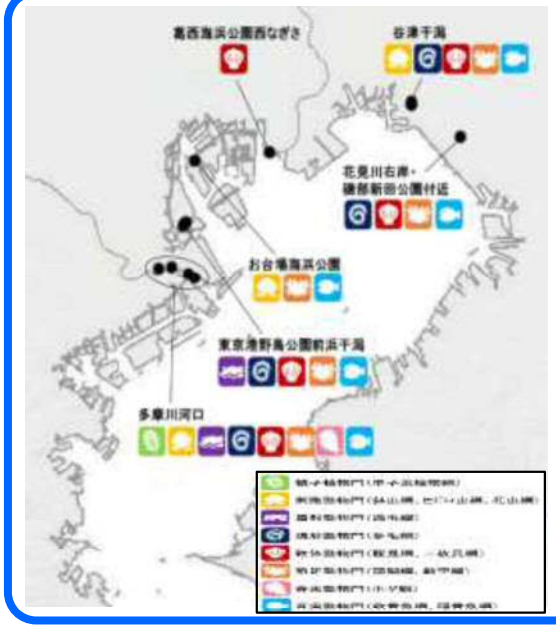
平成30年度東京湾環境一斉調査水質調査の結果

羽田沖から対岸までの広い範囲の底層で、3mg/L 以下の貧酸素水塊が確認された。

平成30年度東京湾環境一斉調査　調査結果の概要

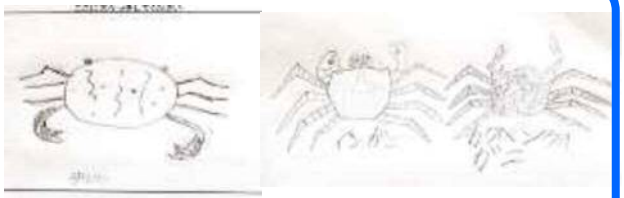
生物調査（参加機関数：16機関、報告件数：16件）

- 「干潟調査」では、生物種の確認を行い、**13綱78種**の生物が確認された。
- 平成30年度は新たに、専用の調査シートを用いた「カニ生息一斉調査」を実施。



確認された生物の一部（右）

干潟調査の実施箇所（左）



調査シートのスケッチ欄に描かれた可愛いカニ

調査で見つかったカニなど

環境啓発活動（参加機関数：18機関、報告件数：19件）

- 海水浴体験やごみ拾い等、さまざまなイベントが開催された。

海水浴体験@葛西海浜公園

ビーチクリーン活動

手長エビ釣り大会